

世界の著名な特許にみる ————— 第10回

# 世紀の発明事業列伝

〈その思いつきが、時代を動かす〉

さようならエジソン その9 (エジソン編完結)

～発明事業家スピリッツは永遠に～

エジソンの人生振り返り・栄光の晩年・終活と葬式・エジソン名言集・エジソン研究・エジソンゆかりのスポット巡り&博物館リスト

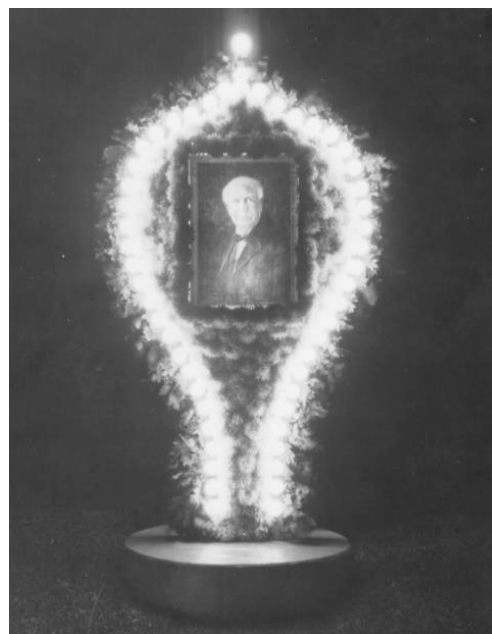


科学&知財クリエイター・弁理士 (雅号)

大樹 七海

## 1. はじめに

9か月に渡って連載を続けてきたエジソンの人生、今回が完結編です。最終回にあたり、これまでのエジソンによる発明事業化にかけた情熱を駆け足で振り返ります。それから、エジソンの発明事業家精神にインスピレーションを与えられ、その精神を後世に残したい！と考えた人々の情熱の所産、そして遂に訪れたエジソンと世界の人々とのお別れ、最後にエジソンの遺した名言、現在も進行中のエジソン研究プロジェクトをお伝えしたいと思います。末尾には、エジソンに縁のあるスポットをご紹介します。



Model of incandescent lamp illuminated at night for Light's Golden Jubilee.

白熱電球50周年式典での夜の粋なライトアップ



Floral arrangement in the shape of a trophy made for Light's Golden Jubilee celebration in Sandusky Park.

白熱電球50周年式典における素敵なお花のトロフィー

## 2. エジソンの人生を振り返る

これまでのエジソンの連載タイトルを、始めから並べると、以下の表になります。

当初、これほど大作になるとは、全く予想をしていませんでした。発明事業列伝の記念すべき第一回の人物はエジソン以外にない、と決め、ひたすら考えていたのは、失礼のないようにきちんと書かせて頂かなければ、という緊張感でした。そうして、エジソンの動きに必死で食らいついていくうちに、こんなに凄い方であったのか！まさに「発明事業化精神の権化」というべき方である、と思いました。

同時に、大変な知の巨人でもあるエジソンにいざなわれて、壮大な世界を見せて貰えた、というのが正直な感想です。読者の皆様も私と同じ様な、お気持ちなのではないでしょうか。

連載その1～その6までは、「特許王エジソン」とタイトルを銘打ったように、技術史の系譜上に特許と事業化の観点から書いていたのですが、その7あたりから、エジソンの活動の規模が、一私人を突破し、アメリカを代表する公人・知識人としての性格が強まってきたため、それに合わせて、書き方も、国際政治・経済面を考慮してスケールアップすることにしました。その6～その7においては、エジソンがいかに科学技術と産業発展、

人類の文明進化の方策を見通して、その実現に向けて人生の最後まで邁進していたのか、ということがわかるように執筆しました。その8は、エジソンが世界に与えた影響、特に日本の近代産業技術史において重要な意味をもつ回として位置づけています。今回のその9は、エジソンとの別れを惜しむ集大成として、お読み頂ければと思います。

回・号	『知財ぷりずむ』発明事業列伝・連載タイトル
第2回 3月号	特許王エジソン その1
第3回 4月号	特許王エジソン その2 起業から白熱灯・電力事業まで
第4回 5月号	特許王エジソン その3 エジソンが最も愛した発明～蓄音機事業～
第5回 6月号	特許王エジソン その4 映画発明事業を巡る特許訴訟と反トラスト法
第6回 7月号	特許王エジソン その5 知的興味と実践の広さ！ 鉦山開発事業からのセメント事業転向・電気自動車と蓄電池事業
第7回 8月号	エジソンの想像力と発想力 その6 第一次世界大戦と海軍軍事顧問就任・全米で話題！エジソン奨学金試験の独特な問題・エジソン幻のSF小説
第8回 9月号	エジソン最晩年序章 その7 最後の研究「霊の存在研究」と「天然ゴムの研究開発事業」生涯現役のエジソン養生訓＜睡眠と食生活＞
第9回 10月号	エジソン その8 親日家エジソンと日本人 ～発明事業家スピリッツの継承～ 「民間外交・近代日本経済の父」渋沢栄一、「日米友好・明治憲法起草者」金子賢太郎、「真珠王」御木本幸吉、「細菌学者」野口英世、「東洋の製薬王・星薬科大創設者」星一、「SF界巨匠ショートショート」の神様」星新一、「モリサワフォント・写植機発明」森澤信夫、「エジソンの社員」岡部芳郎、「日本初外資企業NEC創業者」岩垂邦彦、「東京電機大学と神戸大学工学部とオーム社の創業者」廣田精一

第10回 11月号	さようならエジソン その9（エジソン編完結） ～発明事業家スピリッツは永遠に～ エジソンの人生振り返り・栄光の晩年・終活と葬式・エジソン名言集・エジソン研究・エジソンゆかりのスポット巡り&博物館リスト
--------------	--

### 3. エジソン栄光の晩年

#### 「アメリカの至宝」

エジソンは既に生ける伝説の人となりました。エジソン自身はいわゆる小学校中退ですが、ウィンター・パークのロリンズ大学から名誉科学博士号授与されました。

また既に、国内外で数々の賞を受賞していましたが、1928年10月20日（81歳）にアメリカ国内最高峰の賞である議会名誉勲章を受章しました。

受章理由は「発明の開発と応用を通じて、20世紀の文明に革命をもたらし、進歩の道を照らした」として、アンドリュー W.メロン米国財務長官より伝えられ、式典は3,000万人のラジオ聴衆者に向けて放送されました。



Thomas Edison receiving Congressional Medal of honor from Andrew Mellon., NPgallery  
 名誉勲章受章の様子



Commemorative marker being unveiled to Thomas A. Edison, at Menlo Park, NJ, May 16, 1925. Thomas Edison and wife Mina are in front of the marker., NPgallery  
 記念碑の除幕式 エジソンと妻マイナ

「アメリカの至宝」とは、サタデー・イブニング・ポストがエジソンを評した言葉です。同誌は当時のアメリカにおいて道徳的で、中流層に最も普及し影響力を与えた雑誌です。ちなみに同誌の表紙も名物で、著者の大好きな画家ノーマン・ロックウェルがアメリカの良心ともいべき素晴らしい表紙画を描いています。

#### 「魔術師ではない」

この頃には、エジソンは「魔術師」というニックネームを快く思っていないことを周囲に伝えています。同誌のレムセン・クロフォードの取材には、こう答えています。

「魔術師という呼び名をされると、まるで私が奇術や不可解な手品を使うか、ペテンでも働いて自然の法則や物理的な力を利用して発明をしているような印象を与えかねません。これまでの人生で私が成し遂げを重ねた所産なのです。」

エジソンのほやきについて思う、魔術と技術ですが、筆者の個人的関心（テーマ）としては、魔術という、人が勝手に決めた整合性のとれない設定よりも、宇宙や生命体に隠されている太古より変わらぬ均整のとれた自然